

タゲリ

Vanellus vanellus (Linnaeus)
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

河川に近い湿地的な刈後田や畑地等では、毎年安定して記録されているが、近年は個体数や出現率に減少傾向がみられる。

分 布

本州以南に冬鳥として、水田、畑、河川、草地等に渡来する。県内では、平野部の河川や湖沼沿いの水田等でみられる。1972、1974、1975年に鯖江で繁殖記録がある。

種の特徴

全長 31.5 cm。黒くて長い冠羽を持ち、後頸～上面は黒くて緑色や淡紅色の光沢がある。水田や湿地等に主に冬鳥として渡来し、数十羽までの群れでいることが多い。地上を歩いたり走ったり、また片脚で地面を叩いて追い出し、昆虫類を食べる。

生息を脅かす要因

本種が好む湿地的な刈後田や休耕田等は、水田の乾田化や、大麦・ソバ・大豆等の転作により減少し、渡来地が狭められているため、河川沿いの水田では転作や秋耕作を控え、湿地的な環境を残存させる等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○		○			○	○	○	○			○

イカルチドリ

Charadrius placidus Gray & Gray
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種の生息域は、砂れき河原に限定されており、更に豪雨等により生息環境は常に不安定で、存続基盤が脆弱である。

分 布

北海道～九州で繁殖し、北海道では夏鳥、本州以南では留鳥、一部は漂鳥である。県内では、九頭竜川や日野川の中流域の砂れき河原や、れきで埋まった砂防堰等の水辺に生息する。

種の特徴

全長 20.5 cm。足は淡黄色、頭頂～背中にかけての上面は灰褐色でコチドリに似るが、嘴と足は長く、飛翔時には淡い翼帯が出る。河川の水辺や浅い水域で水生昆虫等を採餌し、時には雪面では動けなくなっているユスリカの成虫もついばむ。

生息を脅かす要因

生息環境の砂れき河原は、洪水による攪乱で維持される不安定な環境であるため、本種の存続基盤は脆弱である。そのため、適度な洪水調節による砂れき河原の維持が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、内田（2007）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○		○	○			○		○	○	○	○

セイタカシギ

Himantopus himantopus (Linnaeus)
チドリ目・セイタカシギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では芦原町で1981年9月に初めて観察されて以来、2002年以降は、数は少ないもののほぼ毎年、旅鳥として春季に多く記録されている。

分 布

旅鳥として、全国の干潟、河川、水田に少数が飛来し、局地的に越冬や繁殖が確認されている。本県では、坂井平野、丹南地域の平野部、北潟湖、足羽川、三方五湖等で記録がある。

種の特徴

全長 37 cm。嘴はまっすぐで細くて黒い。脚は淡紅色で非常に長い。長い脚をリズムカルに折り曲げながら、水生昆虫、小魚、オタマジャクシ、甲殻類等を捕食する。

生息を脅かす要因

本県での飛来地はほとんどが湛水水田であるため、乾田化による湿田の減少や温暖化に伴う5月半ば適期田植への推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が著しく減少し、生息環境は悪化している。三方湖に飛来した個体は、水田で採餌し湖内のヨシを峙としていた。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○			○			○	○	○	○			○